

# 大阪府立国際児童文学館 REPORT



編集・発行=財団法人大阪国際児童文学館 〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6 大阪府立国際児童文学館内 TEL06(6876)8800 FAX06(6876)8686 http://www.iiclo.or.jp

竹下景子さんの講演より

## 大人が子どもらしく居られる 居心地のよさ



今日、はじめて児童文学館の書庫に入り、蔵書のごく一部を拜見したわけですが、本体だけではなく、函や帯なども含めて出版当時のままで保存されていることが、図書館にはないことだけの持っているところ、機能のことということが、私にとっては目から鱗でした。

子どもに関する本ということがひとつの大きな括りですけれども、それだけに留まらない、江戸末期に出ていた「於とぎばなし」から今の雑誌に至るまで本が網羅されていて、タイムスリップしたような感じでした。

子どもの本というのは、絵本も含めてまだまだ日本では価値が見出されたのは最近で、歴史が浅いということがかがったのですが、児童文学というものの価値は、これからむしろ分析されて、もっと大切さが知られていくべき分野だろうなと思います。

そのときに、ここにある70万点に及び蔵書の価値というものが、ますます大事に、日本のというよりは、世界に向けての価値のあるものだと思います。

子どもがすくすく育っていくために、わたしたち大人は出来る限りの努力は惜しまないでいきたいと思うし、その

### 当館をもっと知ってもらいたい！

という願いを込め、「じどうぶんかくかへいこう」のメッセージが入ったオリジナルバツジ・マグネットを制作しました。

当館ゆかりの作家にご協力いただき、8種類の絵柄が完成。子どもたちに大人気の「かいけつゾロリ」は、作者の原ゆたかさんにによる描き下ろしです。

### 館オリジナルグッズを制作

1個1000円の単品購入館内の「ガチャガチャ」のみと、5個入りのセット購入があります。セットはホームページからでも購入いただけます。

大人気の原ゆたかさん描き下ろし「かいけつゾロリ」な「国際児童文学館行き方MAP」もできました。近隣の駅や施設に設置し、ホームページにも掲載しました。

理事 松 居 直

08年度は、当館にとって激動の二年となりました。橋下知事就任以降、施設の廃止、財団の見直しと荒波をかぶり、当面の現地存続を訴える全会一致の請願むなく、府議会では廃止となりました。非常に厳しい運営を強いられた二年でしたが、そのなかでも各方面より絶大なご支援・ご協力を賜り、皆様に支えられて今日があることを痛感いたしました。本当にありがとうございます。

### 皆さまへの感謝を込めて

当財団にとりまして、09年度はさら到大変な年です。70万点に及び資料をはじめ、これまで蓄積してきた機能や専門性をいかにして残していくのか。日本の児童文化の将来にも大きく関わる問題だけに、関係団体ともより一層連携を密にし、各方面のご理解をいただきながら、今後の進路選択を誤ることのないよう全力を尽くす覚悟です。今後ともご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

### 手塚治虫コーナーオープン



手塚治虫コーナーに展示された文化賞特別賞の賞状とアトム像

第12回手塚治虫文化賞特別賞の受賞を記念し、ごも室内に「親子で楽しむ手塚治虫」をテーマに、手塚治虫さんの代表的な作品、英語・ドイツ語・フランス語・ハンガール等に訳して刊行されているマンガ、参考図書など約550冊を貸出用に用意しました。あわせて、賞状とアトム像も展示しています。

### ●なつかしの本に出会おう！

バックヤードツアー  
6月から、当日参加フリーのバックヤードツアーを開始しました。職員が解説しながら、書庫を含めて案内しています。中学生以上向けと小学生向けがあり、毎週土・日・祝日の午後3時から実施しています。千人以上の方が参加してくださり、貴重な本や子どもの頃に読んだなつかしい雑誌、マンガや街頭紙芝居などに会って、非常に楽しかったという声が寄せられています。

### ●インドと日本の絵本

「インドの絵本」をテーマに、次の国際交流事業を実施しました。この事業は在阪企業からの協賛金により実施しています。

- ①シンボジウムアジアの絵本の世界へようこそ 「インドと日本の絵本」  
09年3月1日(日) 講師：インドラ プラシット・ロイ(インドの絵本作家) 秋野亥左(絵本作家)



- ②報告集「インドと日本の絵本」の作成 「絵本」や「インド」に対する理解を深め、研究を促進するため、シンボジウムの記録と3本の報告を日本語・英語の2カ国語で出版しました。
- ③インドの絵本の貸出用セット作成 インドの絵本の魅力を伝えるため、昔話、動物など6つのテーマに沿ったインドの絵本70冊を選出し、解説付リストを作成しました。
- ④子ども向きおはなし会の開催

資料

国際交流事業の一環として  
アジアの絵本貸出セット

05年度より国際交流事業の一環としてアジアの絵本貸出セットの作成と団体への貸出を行っています。各国の作品から厳選した絵本を、邦訳があるものはそれも併せて貸し出しています。

韓国絵本Aセット・Bセット、中国語圏の絵本セット、タイの絵本セットに加え、新たにインドの絵本セット(70冊)を作成しました。学校での異文化教育の教材や、図書館での展示などに活用いただいています。

企画展示と  
公共図書館用展示パック

- ①「タイの絵本の現在」展/08年4月1日~4月29日
- ②「村岡花子と「赤毛のアン」」展/5月20日~7月29日

古書紹介

雑誌「きんのりん」第六輯(三高童話倶楽部編、金の林檎刊行会(京都)発行。1924(大正13)年2月1日)



旧制三高の在校生とその出身者が集い、三高童話倶楽部なる組織を立ち上げ、児童文化の同人雑誌を発刊していた事実は殆ど知られていない。その目的は「少年少女の情操陶冶を理想とし高踏的創作を生み出し、少年少女に適しく且つ高尚なる読物を作る」とある。創作に主眼が置かれていたのかのようにも見

えるが、実はこの活動は単なる評論や創作だけに留まらず、子どもを集めて童謡踊や童話劇を披露して交流する「きんのりん」の会という実践活動も行っていた。この同人に若き日の武田麟太郎が加わり、ほぼ毎号作品を寄せているのも興味深い。当時、児童中心主義の教育が広まり、そのなかで児童文化運動にも関心が向けられるようになっていたが、こうした気運が旧制高校の学生にも浸透していたことを物語るものであろう。当館では、第六輯から17輯(大正15年2月)まで、計8冊を所蔵している。

- ③「手塚治虫と幼年漫画の歴史」展/8月1日~10月30日(監修:竹内オサム・同志社大学教授・07年度当館特別研究員)
- ④「大阪発!子ども文化」子どもたちが楽しんだ童謡・童話の世界」展/11月1日~09年3月6日(監修:加藤理・東京成徳大学准教授・08年度当館特別研究員) /あわせて監修者によるギヤフリートーク(11月15日)・女声合唱団アンサンブルアコールによる童謡ミニコンサート(1月18日)も実施
- ⑤「第25回ニッサン童話と絵本のグランプリ入賞作品」展/3月7日~3月30日

※これまでの展示をもとにした公共図書館用展示パック「ピーター・パンの世界」「フランダースの犬」「ネロとパトラッシュ」のさまざまな姿「イギリス生まれの伝承童謡「マザーグース」を貸し出しています。



「大阪発!子どもの文化」子どもたちが楽しんだ童謡・童話の世界」展

公共機関等に当館資料を  
特別貸出・撮影

当館では公共機関等への展示用の特別貸出や撮影を行っています。08年度は35件、553点の貸出と撮影がありました。

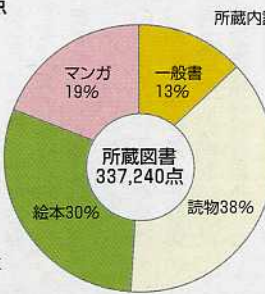
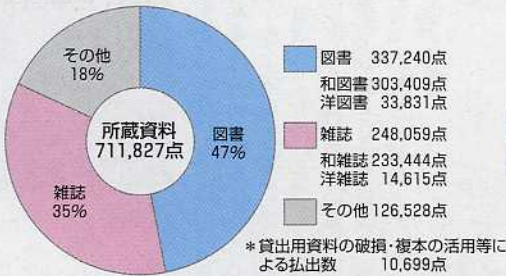
主な貸出・撮影先

- ①「童話家・東山魁夷の世界展」/市川市東山魁夷記念館/9月~10月/「コドモノクニ」巻9号ほか全17点
- ②「万作と草田男」「楽天」の絆/町立久万美術館/10月~11月/「小学少女」2巻9号ほか全7点
- ③「ソノ」の70年後の再訪日/自由学園明日館(主催:日本アイランド協会など)/10月/「ソノ」兄弟の冒険」ほか全6点
- ④NHK教育テレビ「美の壺 レトロな絵本」/NHK(撮影:日経映像)/11月/「コドモノクニ」巻10号ほか全16点
- ⑤「あら、尖端的ね。」/岡崎市美術館/09年2月~3月/「ジドワタイム」1巻5号ほか全37点

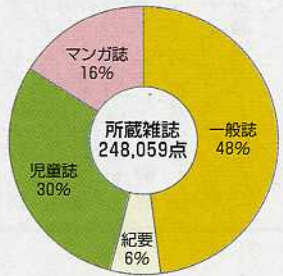
That's IICLO

所蔵資料統計平成20年度(2008年度)

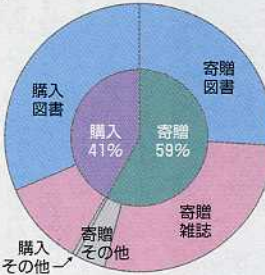
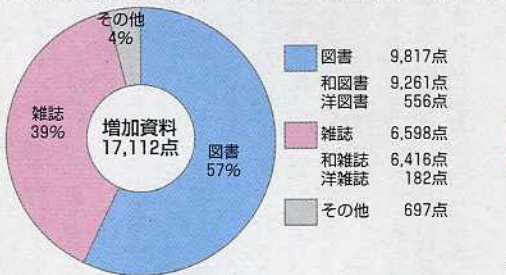
所蔵資料(2009年3月末現在) 総点数711,827点



一般誌	119,322点
児童誌	75,231点
紀要	15,112点
マンガ誌	38,384点



増加資料(2008年4月~2009年3月) 総点数 17,122点



寄贈図書	4,434点
寄贈雑誌	4,847点
寄贈その他	609点
購入図書	5,383点
購入雑誌	1,751点
購入その他	88点

# 研究

## 子ども向け図書検索システム開発研究

公共図書館でも導入館が増えている「ほんナビぎっず」(子ども用検索サイト)。学校教育の場でさらにご利用いただき、またより使いやすいシステムに改良するため、バージョンアップ・プランを作成するとともに、新刊図書のキーワードやあらすじなどのデータ作成(追加投入)を行いました。システムを活用した授業プランを構築し、これらをもとにした出張授業を行うなど、子どもたちの反応をできる限り開発に生かすよう努めています。

## 特別研究員制度

05年度より、外部の研究者に当館の資料を活用して研究を深めていただく特別研究員制度を設けています。ネットワークを広げ、研究成果を当館の展示の企画監修、講演会の開催、紀要への論文掲載等で還元していただいています。08年度の特別研究員は次の方です。  
加藤理(東京成徳大学准教授)／研究テーマ「誕生期「児童文化」の概念と活動の研究」／成果還元Ⅱ展示企画監修(キャリアリートーク)および館紀要への論文投稿

## 出版物

### ◆「インドと日本の絵本」

(編集長 三宅興子・梅花女子大学名誉教授)

#### ①シンポジウム報告

インド・フラミンゴ・ロイ(画家・絵本作家)・秋野左半(絵本作家)

#### ②インドの絵本・今昔

アニタ・カンナ(インド・ジャワハラールネルー大学)

#### ③日本におけるインドの絵本の受容

鈴木千歳(インド児童文学の会代表)

#### ④フラマチャンドランの絵本小論

黒川妙子(国際識字文化センター事務局長・恵泉女学院大学非常勤講師)

#### ⑤フラマチャンドラン／インタビュ

聞き手：黒川妙子

#### 明治大正期児童雑誌

内容目次データベース作成

当館が所蔵している貴重な明治大正期の児童雑誌を研究し、内容目次データベースを作成するために、外部の研究者の協力を得て、当館職員と協働でプロジェクトを行っています。08年度は、科学研究費助成を受けて「少年世界」「少女世界」「幼年世界」の内容目次データベースを作成し、当館資料検索システムで公開しました。

#### 建国大学(ソウル)と

学術交流イベント開催

建国大学(ソウル)「童話と翻訳研究所」から学術交流の申し出を受け、国際研究大会「日本と韓国から見た宮澤賢治童話の世界」(08年6月14日(土))を開催、日本の児童文学の振興と国際交流に努めました。当館からは、向川幹雄

館長ほか2名が参加。館長による記念講演「日本の児童文学と宮澤賢治」のあ

り、遠藤純主任専門員「日本児童文学史における宮澤賢治の受容」

と向川幹雄

と向川幹雄

と向川幹雄

と向川幹雄

と向川幹雄

と向川幹雄

と向川幹雄



学術提携文書にサインするソ・ヘスク教授(左)と向川幹雄

鈴木穂波専門員「日本で出版された賢治童話絵本」の研究発表が行われ、引き続き韓国の研究者を交えた総合シンポジウムとなりました。こうした学術交流を今後も継続すべく、当館と建国大学童話と翻訳研究所は学術提携を行うことも決定しました。

貴重な機会を提供してくださった建国大学の関係各位に感謝申し上げます。

## 子どもを楽しむ

竹下景子さんと



子どもの頃に親しんだ絵雑誌「キンダーブック」を模かしそうに手に取る竹下景子さん

当館では、女優の竹下景子さんをお迎えして、朗読とトーク「竹下景子さんと子どもの本を楽しむ」「本は生の友だち」を開催しました。このイベントには定員100名のところ、800名を超えるご応募をいただきました。

当日は、竹下さんに宮澤賢治の作品「よだかの星」「セロ弾きのゴーシュ」を朗読いただき、朗読にあわせて大阪センチュリー交響楽団による弦楽四重奏もお楽しみいただきました。後半は、竹下さんのトークで、朗読をはじめられたきっかけや朗読に寄せる思い、自らの子ども時代のことから子育てと子どもの本に至るまで、貴重なお話をたっぷりとお聞きすることができました。

素敵な音楽が流れるなか、賢治の世界、そして竹下さんのトークに魅了されたひとときでした。

# 振興

## 手塚治虫文化賞受賞記念イベント

手塚治虫文化賞受賞記念イベント「緑いっぱい物語いっばい」子どもの笑顔いっぱいの日(08年7月13日(日))

人形劇・街頭紙芝居・クラフト・アニメーション・アフリカの太鼓と昔話など多彩なイベントを実施。



「音楽劇団てんてこ」による舞台

参加者数：1947名

主催：大阪国際児童文学館を育てる会  
共催：財団法人大阪国際児童文学館／全国児童・青少年演劇協議会／独立行政法人日本万国博覧会記念機構  
後援：大阪府教育委員会

協力：株式会社手塚プロダクション、大阪府子ども文庫連絡会・自然観察学習館指導リーダーの会・高槻・枚方・大阪市内の人形劇連絡会・地球おはなし村人形劇グループクチャちゃん他

## ニッサン童話と絵本のグランプリ

日産自動車(株)の協賛を得て、当財団が主催している「ニッサン童話と絵本のグランプリ」は、童話と絵本の振興に寄与するとともに、新人作家の登竜門ともなつて高い評価を得ています。

第25回の応募総数は、童話2351編、絵本679編で、厳正な審査の結果、次の作品が入賞し、09年3月8日に当館講堂において表彰式を行いました。大賞受賞作品は、09年12月頃にB.L出版から出版されます。

### \*童話の部

【大賞】「鉄のキリンの海わたり」あさぼみゆき(神奈川県)【優秀賞】「真面目な幽霊」北村あつこ(東京都)／「宇土先生と青虫」藤島恵子(千葉県)／「むらさきいろのスイカ」こうともこ(大阪府)

### \*絵本の部

【大賞】「たいふうがくる」みやこしあき(東京都)【優秀賞】「かえりみちに風がふくと」玉造純子(神奈川県)／「くいしんぼうのワニ」ニシタエイジ(大阪府)／「窓から」宮崎明美(東京都)

## 各種共催イベント等の報告

日本万国博覧会記念機構との共催イベントを下記の通り実施しました。

①「エコフェスタ」08年11月9日(日)ブースを出展し、エコグッズや環境に関する本のリストを配布。また、絵本のキャラクターによるステージを実施。参加者数：6883名

②雪まつり「冬のことをさがそう」09年2月7、8日(土、日)ブースを出展し、冬にまつわることは遊びを開催。参加者数：721名

団体利用プログラム

子どもが読書の楽しさを味わえるように、当館専門職員とボランティアが協働し、研究や実践の成果をいかしたプログラムを無料で実施しています。

これは、保育所・幼稚園・小中学校を対象にした、素話・絵本・ビデオ本の紹介・ワークショップ・人形劇など、子どもたちが本や物語の世界にふれるプログラムです。

08年度は、昨年度の1.5倍の51団体、約3300人の子どもたちにご利用いただきました。

大阪府子ども読書活動推進事業

大阪府子ども読書活動推進連絡協議会(事務局：当館)では、文部科学省の助成を受けて以下の事業を行いました。

- ①「豊かな子ども読書活動をめざして」平成20年度報告書(09年3月)の発行
- ②「啓発リーフレット」親と子が楽しむはじめての絵本(09年3月)の発行
- ③講演会「10代の子どもの本を書く」09年2月26日／講師：花形みつる(作家)／09年度活動報告会と交流会の開催／ホテルアウイナ大阪
- ④豊能町におけるモデル事業「乳幼児と絵本」講座「ゆつくり子育て」09年1月22日、2月12日／豊能町立図書館
- ⑤講座「中学生におはなし絵本をどける」09年1月7日、1月8日／大阪市立中央図書館、当館
- ⑥中学校でのおはなし会の実施／府内15市町、中学校36校
- ⑦オーサー・ビジット(一)／09年2月11日／田中清代(絵本作家)／当館
- ⑧オーサー・ビジット(二)／09年2月12日、13日／花形みつる(作家)／箕面市立第二中学校、第二中学校

講座・講演会

- ①「紹介と解説2007年に出版された子どもの本」講師：西村寿雄(科学読物研究会)／当館職員／4月27日～29日／参加者305人
- ②児童文学講演会「ちいさい絵本のいまむかし」グリコのおまけ絵本とイギリスのチャップブック」／講師：三宅興子(梅花女子大学名誉教授)／シンポジウム「大阪国際児童文学館の未来への展望」／主催：大阪国際児童文学館を育てる会／共催：当財団／6月8日／参加者95人
- ③おはなしボランティアスキルアップ講座「こどもと絵本をよむ」(全5回)／講師：当館職員ほか／6月10日～11月11日／参加者29人
- ④「ツサン」童話と絵本のグラフィック25周年記念「創作オープンセミナー」／講師：松岡享子(東京子ども図書館理事長)／グラフィック審査員：あまんきみこ(童話作家)／グラフィック審査員：ほか／7月16日・8月2日／日産自動車本社当館講堂／主催：当財団・日産自動車
- ⑤「鬼太郎」物語の誕生と成長！民話、紙芝居、マンガの世界から」講師：...

閲覧室

入室者数8309人／閲覧冊数5万9427冊／複写枚数8万4514枚／レファレンス件数11888件

入室者数・閲覧冊数・複写枚数ともほぼ倍増し、貴重な資料を多くの方に活用いただいております。新刊コーナーでは、過去1年間に発行された新刊の児童図書および関連図書を開架しています。

モノレール駅に「よモノン」がオープン



「よモノン」は楽しい絵本がいっぱい

08年12月25日(木)、大阪モノレール公園東口駅構内に、館職員の選んだ絵本など316冊が揃った子ども本コーナー「よモノン」がオープンしました。ソファやクッションに座り、親子での自由な読書を楽しんでもらうことができます。開設を記念して、駅長と子どもたちのくす玉割と、劇団クラルテの人形劇上演のイベントを行い、155名の参加がありました。館MAPやイベントチラシを置き、館の情報がわかる広報スペースとしても利用しています。

イベント「ミッフィーとあそぼう」



子どもたちの質問に答えるミッフィー ©Mercis bv

ついでに

こども室行事の全回数は59回、参加者数は4107名。おはなし会は30回行い、うちボランティアの参加は10回。テーマは「食」・「風」・「百物語」など。参加ボランティアを対象に5回のスキルアップ講座と事前研修を行いました。

他に、「物語体験ワークショップ」(8回)「アニメーションを作る」(講師：小谷佳津志「ことばあそび大会」)「街頭紙芝居」(出演：三巴会)「手塚治虫マンガクイズ」(おたのしみ会)「カルタとり大会」(大型ビデオ上映会)を実施。加えて次の行事も行いました。

◆夢の池劇場

「バオバブの木の下で」西アフリカのおはなし」出演：江口久(国立民族学博物館名誉教授)他／5月3日  
「世界のアニメーション」5月4日  
「だてだてのおばあさんの世界」①ワークショップ②舞台劇上演・劇団うりんこ(子どもゆめ基金助成)／5月5日  
◆絵本作家のワークショップ  
「田中清代さんと絵本を作る」二ドールペンと光沢紙で野菜を主人公にした3絵本を作りました。／2月11日  
「かとうまふみさんと絵本を作ろう」文房具を主人公にした絵本を作りました。／3月21日(子どもゆめ基金助成)

08年11月8日(土)、「大阪」ころの再生「フェスティバル ミッフィーとあそぼう」を開催しました。ディック・ブルーナさんの絵本で知られるうさぎのキャラクター・ミッフィーが当館へ来て、子どもたちと写真撮影、あく手・ダンスなどを楽しみました。また、イベントに併せてブルーナさんのおはなし会、クイズラリーなども行いました。

◆おはなしモノレール

08年11月22日(土)、貸切モノレールの中でおはなし会を楽しみました。親子201名が2回に分かれ、万博記念公園駅から4両に乗車、車内で当館職員とボランティアによる昔話や乗り物の絵本などを楽しみました。彩都西駅に到着後、彩都インフォメーションで、当館ボランティア人形劇サークル「ぼれつと」の人形劇「なら梨ととり」を観劇。参加者に協賛各社からの記念品(ランチボックス・トートバッグ・万博公園入園券)をお渡ししました。

\*編集後記\*

28号をお届けいたします。

08年度は、当文学館の廃止並びに府立中央図書館への移転が大阪府の財政再建プログラム(案)に示されるなど、当館にとってかつてない厳しい年となりました。そのような状況のなか、多くの皆さま方からあたたかいご支援をいただき、今更ながら本当に皆さんの方々に支えられて今日があることを再認識いたしました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。本レポートも28回目を数えますが、次年度も29号をお届けできるよう、職員一同職務に邁進して参ります。今後ともご支援の程よろしくお願い申し上げます。